



地球

2012年冬号

男女が共に生きる情報紙 VOL.91

ワーク 分かち合い
 ライフ らくらく3役
 バランス バトンリレー
 家庭人、地域人、職業人、どの場面でも
 “笑顔”で!!

ひとりで3役?
 どうしたらできるのだろう?
 疲れきってしまうのでは?



“自分でやらねば…”は
 尊いですが
 『休業休暇は仕事や社会
 の活性化作業』
 と云えないでしょうか

皆で幸せになれる
 方法を考えてゆきましょう!

ライフの体験が
 ワークに反映
 されるといいですね



お互いさまの
 おもいやり
 &
 感謝

イラスト／ふじさわ男女共同参画プラン推進協議会委員 三浦まみ



フォーラム特集

共に生きるフォーラムふじさわ2011

地域に根ざして くらしも仕事もバランスよく
 ～ワーク・ライフ・バランス 1人3役(家庭人、地域人、職業人)のススメ～



もくじ

- 「地域に根ざして くらしも仕事もバランスよく
 ～ワーク・ライフ・バランス 1人3役(家庭人、地域人、職業人)のススメ～」講演内容のまとめ
- インタビュー 講師：内閣府男女共同参画会議専門委員 渥美 由喜 氏
- 講演会に参加して… これからの男性はイクメンで行こう! —男性の育児参加の最前線は?—
- 探検! ふじさわ 「ふじさわ国際交流フェスティバル」に行ってきました!の巻
- 編集後記
- インフォメーション

地域に根ざしてくらしも仕事もバランスよく ～ワーク・ライフ・バランス 1人3役(家庭人・地域人・職業人)のスヌメ～

講師：内閣府男女共同参画会議 専門委員 渥美 由喜(あつみ なおき)氏

講師プロフィール

複数のシンクタンクを経て、2009年東レ経営研究所入社。現在、ダイバーシティ&ワークライフバランス研究部長。

厚生労働省「イクメンプロジェクト」委員等の公職を歴任。プライベートでは5歳と1歳の2児の良きお父さんで、育児休業を2回取得。

仕事、育児のほか、「こども会」のボランティア活動をライフワークとし、座右の銘は「市民の三面性=家庭人、地域人、職業人」。

著書に「イクメンで行こう!」など。



2011年11月12日、藤沢市労働会館で渥美由喜さんによる講演会が開催されました。

ユーモラスに本音を含んだ多くのエピソードには、豊かな人生を送るためのヒントがたくさん詰まっていました。

『ワーク・ライフ・バランスって何?』、『どうして大事なの?』、『どうせ無理』、こんな疑問や悩みを抱えている人にも、きっと一歩前進したいと思わせてくれる講演会でした。

今回はその貴重なヒントの数々をご紹介します。

渥美さん独自の表現や新語も登場するので、ぜひチェックしてみてください。

1. 育児の中での育自(自分)

夫婦共働きで1歳児と5歳児の育児中。会社と地域の微妙な視線を浴びる中、2007年に1回目の育児休暇を取得。就労時よりも過酷で「育児休暇」ならぬ「育児専業中」と感じる日々の中、普段目に見えなかったものへの「気づき」が増え、様々な物事に感謝できるようになった。育児をする過程で自らが育てられた。

★洗濯物を畳んでおく

はじめは妻からのダメ出しもあったが、最近ではハナマル👍がもらえるようになった。小さなサプライズが夫婦円満の秘訣。

★公園デビュー

地域女性の会話(ネバーエンディングストーリー)にはじめはついていけず浮いていたが、互いの愚痴を聞くことで生まれる「絆」があることを知った。

★見よう見まねの料理デビュー

早起きし、弁当男子に。朝、気づいたら身体が動くように。今まで「楽だった」ものが「楽しい」に変化した。

2. お互い様の介互(介護)

認知症の父の介護中。育児は雲の上を目指した「上り坂」であるのに対して、介護は底なし沼に吸い込まれる「下り坂」のよう。しかし介護は親への恩返しのチャンス。将来は自分も介護される身になる。介護はお互い様。兄弟数が減っている昨今は、昔のように兄弟で協力し合うことが難しくなっているため、夫婦で助け合うことが大切。「仕事よりも家族と一緒にいなさい」と助言してくれた職場の上司。来たる介護ラッシュに備える職場づくりも重要。

3. 保険と投資

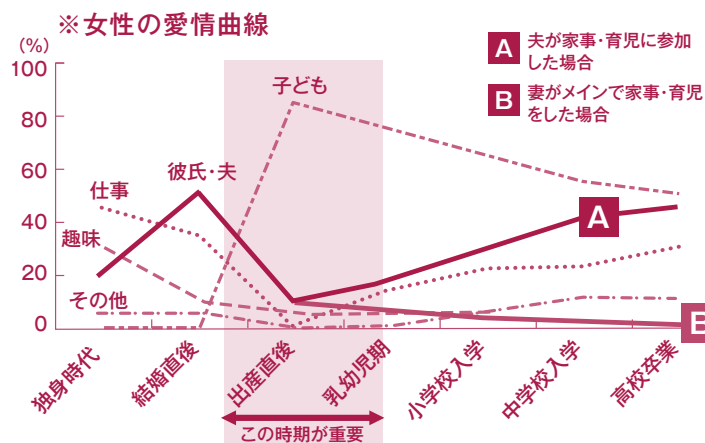
家事に費やす時間は「投資」、働く妻にとってもイクメン&カジダン(家事をする男性)は「保険」。妻いわく、「私たちは戦友」。妻がマタニティブルー(出産後、育児疲れや睡眠不足により情緒不安定になる時期)のとき、いかに助けるかでその後の愛情が変わる。
※「女性の愛情曲線」

4. 息子たちをイクメンに

息子たちに家事を楽しんでいる背中を見せる。自分が「楽」をすることよりも「楽しむ」姿勢。子どものミスを叱るのは簡単だが、芽を摘むことになってしまう。楽しませて褒めてやるのが大切。男女ともに、普通に家事・育児をして、普通に働く社会にしたい。「ワクメン(仕事をする男性)よりイクメン」という言葉がいずれは死語になるような、当たり前前の社会になればいい。

5. 地域の子育て(育地)

17年間、地域の公園で子ども会を開き、のべ1700人に紙芝居などを実施。虐待、不登校など心に傷をもつ子どもも多い。自分の子どもだけでなく、地域の子どものにも声をかけ、目をかけ、心をかける。子どもは家庭、社会の歪みを映す鏡でもあり、希望をもった未来を映す鏡でもある。タテ(親子、先輩後輩)ヨコ(級友)の関係だけでなく、ナナメ(地域)の関係の大切さを学んだ。イクメンが増えれば確実に「地域力」は高まる。



6. ポジティブ・オフ(休暇の積極活用)

「休暇は仕事の効率が落ちる」は間違い。「誰かが休んでもカバーし合える職場」は危機に強い。

職場や企業にとっての休暇のメリット

- ★作業の「マニュアル化」で、誰でも対応可能に。
- ★仕事を代行することにより業務の無駄が発見され、効率化につながる。
- ★若い社員は将来自分が担う役割を早めに体験できる。

7. 「良かった」づくり

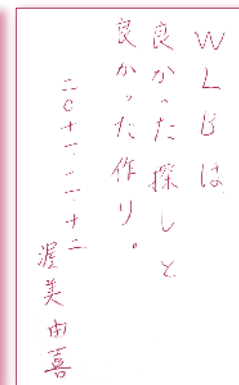
2010年2回目の育休を取得。次男の闘病生活を支える。子どもは生命力にあふれている。人生は長さではなく密度。職場でも家庭でも「良かった」づくり。

- ★上司：誰もが働いていて「良かった」と思える職場づくり
- ★イクメン：子どもが生まれてきて「良かった」と思える環境づくり
- ★妻：産んで「良かった」と思える環境づくり
- ★介男子：親が晩年に生きていて「良かった」と思える環境づくり

8. 終わりに・・・ ワーク・ライフ・バランスの重要性

家庭、職場、地域など、周囲に感謝する日々。ワーク・ライフ・バランスは、経営戦略、地域戦略として不可欠。ただし、即効薬ではなく漢方薬。服用し続けると強靱な企業体質、持続性の高い地域となる。近視眼的に目先の業績向上に目を奪われていると、どうしても後回しになってしまう。このことに気づけるかどうか、日本企業や職場は今大きな分岐点に立っている。

(岸田 記)



インタビュー



フォーラム終了後、お時間をいただいてさらにお話を伺ってみました。

Q 「イクメンで行こう!」が出版されて一年たちました。どんな反響がありましたか。

A 積極的に声をかけてくれる人もいますが、そんなの特殊な仕事だからできるんだという否定的な意見もあります。買ってくださったのは圧倒的に女性が多いようです。夫にも読ませたいのですがという相談もあります。

子どもを育てていると面白い事がたくさんありますよね。ご自分が体験した面白いこと、感じたこと等を育児日記に書いて伝えることをお勧めします。それを読んでかけがえのない“今”に興味を持った男性がこの本を読んでくれたらいいと思っています。

Q 胸についている白いパッチは何ですか。

A 厚生労働省がイクメンプロジェクトをやっています。事務局がデザインしたのですが、作る予算がないということで自

分で500個作りました。これをつけていると、電車の中で声をかけてくれる人もいますよ。ひとりキャンペーンです。

Q 最初に何かやるということは風あたりも強かったと思いますが、育児休暇を取られて後に続く人はいましたか。

A 2,3人います。育児休暇を取らない人でも早く家に帰って、子どもとお風呂に入ったり、家事を手伝うようになった人もいます。

Q 公園で開かれている“あおぞら子ども会”のお話に感動しました。子ども達のその後を聞かせてください。

A 最近気になるのは、子ども達への虐待が増えている事です。虫歯だらけの子も多いです。深刻な問題をかかえている子ども多くいます。子ども達は親に虐待されても、親を憎むより自分が悪いと考えます。自己肯定感が低い子ども達に「君はすばらしい、君は愛されているんだよ」と伝えることが大切です。昔はナナメの関係があって、近所の人や親戚のおじさんおばさんが受け皿になってくれることも多かったのですが、その関係が薄れてきて、居場所がなかったりひとりで長い時間を過ごす子どもがたくさんいます。

Q ご自分の育児を採点したら何点ですか。

A 以前に妻に採点してもらったことがあるのですが、思いがけず90点くれました。あとの10点は子ども達がちゃんとイクメンに育ったらもらえるそうです。

Q ストレス解消法は。

A 自分でがんばれ!がんばれ!と声に出したりします。また、ストレスをなくすというより、ストレスを生かして次の何かができないか考えます。たとえば早起きが苦手な子を叱らずに早起きさせる方法はと考えた時に、起きたら野菜の水やりとか、金魚のえさやりができることにしました。それが楽しみになって早起きができるようになりました。

イクメンって自分の子どもを育てることだけでなく、地域で子どもを育てるといふ大きな意味があることがよくわかりました。ありがとうございました。

(多根 記)

講演会に参加して…

これからの男性はイクメンで行こう!



男性の育児参加の最前線は?

育児が大変なことであるのは確かだ。今まで育児はもっぱら女性が担っていた。しかし、女性の社会進出に伴い、家事や育児についても男性が家庭の中で分担してかかわっていく必要が出てきた。「忙しいから」、「家事は女性の仕事」とは言っていられなくなっているのが今の日本の現状だ。いや、最近では、忙しくてもきちんと家事や育児に向き合っている男性を数多く見ることができるようになってきた。参加した講演会の講師もそんな一人、この流れを作った旗頭 渥美 由喜先生だ。この手の講演会は会場のほとんどを女性が埋めつくすことが多いが、今日の講演会には男性の姿が大変多くみられた。また、参加した男性からのアンケート回答でも、「実際に体験していることに感銘を受けた」という意見が多かった。若い世代の男性からは、「今後の生活を送る上でとても参考になった」「実体験に基づいた話で説得力があった」などの声が寄せられ、子育てが終わった世代からも「実践していることに感銘を受けた」など、講演会の雰囲気も終始和やかで多くの男性の共感を得られていた印象を受けた。

育児中の女性からは、「子育てに日々悩んでいる、とてもためになった」という意見、そして、世代を超えて多くの女性から「改めて気付かされた」「夫、息子にも聞かせたかった」という意見があった。女性の回答の中に「地域に生かせたら…」「男性が子育てに参加することが子ども達を地域で守ることにつながる。」など、地域社会とのかかわりを意識した意見があった。また、「家庭でも仕事でも地域でも相手を思いやるということが大切」という意見などは、イクメンにとどまらず、家事を分担するカジダン、親の介護をするカイダンシ、など周りの人間を思いやり、家族を含んだ地域社会でいきいきと生き、自分も育っていくことが大切という講師の話につながる。

アンケート結果を見る限りでは、男性も育児に参加するという認識が着実にできつつあるようだ。講師が望んでいるように父親が男の子をイクメンに育てるのが当たり前になり、イクメンという言葉自体が無くなる日も間違いなく来るだろう。

渥美氏の著書「イクメンで行こう!」の中に「公園ママ達の会話で、ママ友の愚痴は自分の愚痴で返す」という法則があると書いてあった。さっそく実生活で試してみた。会話がいつもよりスムーズにいく。こんな基本的なこともわからなかった自分に驚いた。愚痴の相談にのるだけが実りある会話ではなかったことに初めて気がついた。男性からの視点って大切だ。イクメンパパ達は、女性の切り口とは全く違うところに視点を持っていて、仕事のように家事をこなしたり、管理できたりもする。「イ

クメンパパ達と仕事を持ったママ達がタッグを組めば、もっと子育てがしやすい社会になるのではないだろうか。」との渥美さんの言葉に思わず納得。

さきごろ熟年離婚が増えている。仕事に没頭して、定年を迎え、家に入る年代で、いきなり離婚を突きつけられる男性達…。渥美さんは数値を示して、家事にかかわってきた男性は、仕事に没頭して全く家事にかかわらなかった男性に比べ離婚される率が少ないと説明された。確かに家事という同じ領域を分担することで、夫婦間の会話も必然と増える。

昨年末、家族の絆が大切と感じた人がとても多かったと一年を振り返ってのニュースは伝えていた。こんな時こそ、男性も家庭に目を向けるいいチャンスではないだろうか。一足飛びに育児休業取得が無理な人でも、自分の周りから、少しずつでもいい、みんなでイクメンのブームを作っていこうではないか。今育てている自分の子ども達がイクメンに育つことを期待して…。

(川辺 記)

当日の参加者109名のところ、46名がアンケートに答えられました。ご協力いただき、ありがとうございました。

探検! ふじさわ

「ふじさわ国際交流フェスティバル」 に行ってきました! の巻



昨年11月6日に藤沢駅北口サンパール広場にて、「第8回ふじさわ国際交流フェスティバル」が開催されました。このフェスティバルは、外国人市民と共に生きる地域社会を目指して開かれたもので、世界各地の物産品や食文化を紹介するテントブースと音楽や踊りなどを披露するステージがあり、毎年数千人の来場者で賑わっています。

当日はあいにくの雨でしたが、藤沢駅を出たとたん、元気なかけ声と各国料理のいい匂いに引きこまれるように、出店テントをのぞいてみました。

昼時に行ったので、まずは各国料理を販売・紹介しているテントを探索です。キムチやチヂミといった人気の韓国料理(湘南日韓親善協会)、藤沢市と50年以上前から姉妹都市を提携している米国マイアミビーチ市(湘南マイアミビーチ市親善協会)からは本場のホットドッグ、バリ島のフライドチキン(NPO法人 日本バリ協会)など、各国の自慢料理が販売されていました。



なかでも、興味深かったのはネパール料理の“モモ”。名前からは、想像もつきませんが、ネパールの蒸し餃子です。湘南工科大学のネパール国籍の留学生たちが出店しており、毎年好評のメニューだそうです。

お腹が満たされたところで、別のテントをのぞくと、「どうぞ! いらっしゃい!」と呼びかけ。素敵な笑顔に引きこま



れて入ったのは、国際交流コーナー((財)藤沢市みらい創造財団・国際交流のつどい)です。ここでは、ベトナム語の講座が行われていました。私も



子どもと一緒にベトナム語にチャレンジ。“Xin chào.”(シンチャオ=こんにちは)や“Cám ơn.”(カムオン=ありがとう)など、簡単なあいさつを楽しく教えてくれました。(帰りには、お菓子のお土産をいただきました!)

ステージでは、インドネシア・バリ島の伝統舞踊、中国少数民族の伝統舞踊、フラダンスやエコパフォーマンスなどが披露されました。

今年も、東日本大震災復興支援も掲げており、各出店のテントには募金箱が置かれていました。この募金と売り上げの一部が藤沢市を通じて被災地に寄付されました。



この日のサンパール広場は、小さな小さな地球儀のようで、各国の食文化や物産品を通して、身近に世界を感じたのと同時に、藤沢市にはさまざまな国籍の人が住んでいて、多くの国や都市とつながっていることを実感した1日でした。

(佐野 記)



- 2012年、平和で穏やかに過ごせますように。今年の箱根駅伝の結果は・・・(遠藤)
- コートの襟を立て家路を急ぐその足をふと止めて星空を仰ぐ、街中でも冬は星がきれいに瞬く。(川辺)
- どんな環境でも時間を無駄にせず、自分にとって意味のある時間を送りたいと思いました。(岸田)
- 去年は「絆」について考えさせられた年でしたがタテ、ヨコそしてナナメの絆(地域)も深めていけたらいいですね。(佐野)
- ささやかな地域力は近くの人への声かけから。集まればおおきな力になることでしょう。(多根)

インフォメーション

勤労市民課からのお知らせ

■ 問合せ先・申込み先

藤沢しごと相談システム運営センター(労働会館内)
TEL.23-8222 FAX.23-8277
(月～金曜日(祝日除く) 9:00～17:00)

■ 申込み

随時受付(定員になり次第締め切り)。電話または来所で。
上記「藤沢しごと相談システム運営センター」へ。

就職支援個別カウンセリング 藤沢市労働会館

- 内 容: 就職に向けた相談に個別アドバイスします。
その後、無料でお仕事を紹介します。
 - 日 時: 毎週火曜日、木曜日 9:30～16:00
(祝日は除く)
 - 対 象: 市内に在住または在勤の就職・転職を希望する方
(各日5名/1人1時間以内)
- ※ この他にも就職のご相談に応じます。
(火～金曜の祝日を除く9:00～17:00)
まずはお問い合わせのうえ、お気軽にご来館ください。

就職支援セミナー 藤沢市労働会館

- 内 容: 「企業研究のポイント
～自分に合った企業を見つけ、説得力ある
『志望動機』で就職を勝ち取るために」
・企業情報収集の手法
・情報収集の読み込み方
・志望企業の見つけ方
・志望企業が自分に合っているか
・説得力ある「志望動機」を
まとめるために 等
- 日 時: 2月21日(火) 13:30～16:30
- 対 象: 市内に在住または在学・在勤の就職・転職を希望
する方(20名)

公民館からのお知らせ

ライフセミナー

～我が子と家族を守る! 私の防災力アップ～

藤沢公民館 ☎22-0019

- 内 容: 1回目: 知っておきたい放射能
(講師=湘南藤沢学びネット登録講師
紺谷 健一朗 氏)
2回目: 私の防災力アップ
(講師=(公財)横浜市男女共同参画社会参画
推進協会職員)
- 日 時: 2012年2月28日(火)、3月6日(火)
10:00～12:00/全2回
- 対 象: 成人女性30人
※保育あり: 2歳以上の未就園児15人
(おやつ代200円)
- 申込み: 2012年2月2日(木)
8:30から電話又は来館で(先着順)

サークル共催講座「スクエアダンス講習会」

村岡公民館 ☎23-0634

- 内 容: 軽快な音楽に乗って踊るスクエアダンスの基本
動作を楽しく学習する
- 日 時: 2012年3月5日(月) 13:00～15:00
- 対 象: 一般 20名
- 申込み: 2012年2月20日(月)
午前9時より電話または来館

かがやけ地球は、市民の編集員さんの
企画・運営によって年4回発行しています。

編集スタッフ

遠藤 倫子・川辺 裕子・岸田 弥生・佐野 美穂子・多根 純子

ART INAMOTO

女性スタッフを中心に細心・斬新・良質なクリエイティブワークを。

Graphic Design · Advertisement · Sales Promotion · Website



グラフィックデザイン
有限会社 アート稲元

www.art-inamoto.co.jp
〒251-0002 藤沢市大鋸 1-9-3 Tel.0466-25-4019

古書・アウトレット本 買取と販売

ご不要なもの、お売りください。※一部、買取れない品もあります。
買取(買取品目)書籍・CD・DVD・ゲームソフトなど
お売りたい際は身分証明書の提示をお願いいたします。

お買得 稀少 アウトレット本と古書の販売 詳しくは、下記ホームページで
発売後、読者の手に渡らず出版社に在庫されていた未読の本(アウトレット本)を
旧定価の20～80%OFFで販売します。他に珍品や稀少本など古書も扱っています。

藤沢駅(南口)前・有隣堂藤沢店5階
リブックス藤沢店 ReBOOKS 有隣堂
☎0466-26-1411(有隣堂藤沢店代表番号) ●ホームページ http://www.yurindo.co.jp/

藤沢・茅ヶ崎・寒川 “湘南” がエリアのFM放送局



http://www.radioshonan.co.jp

STUDIO FAX No.0466-29-2121

